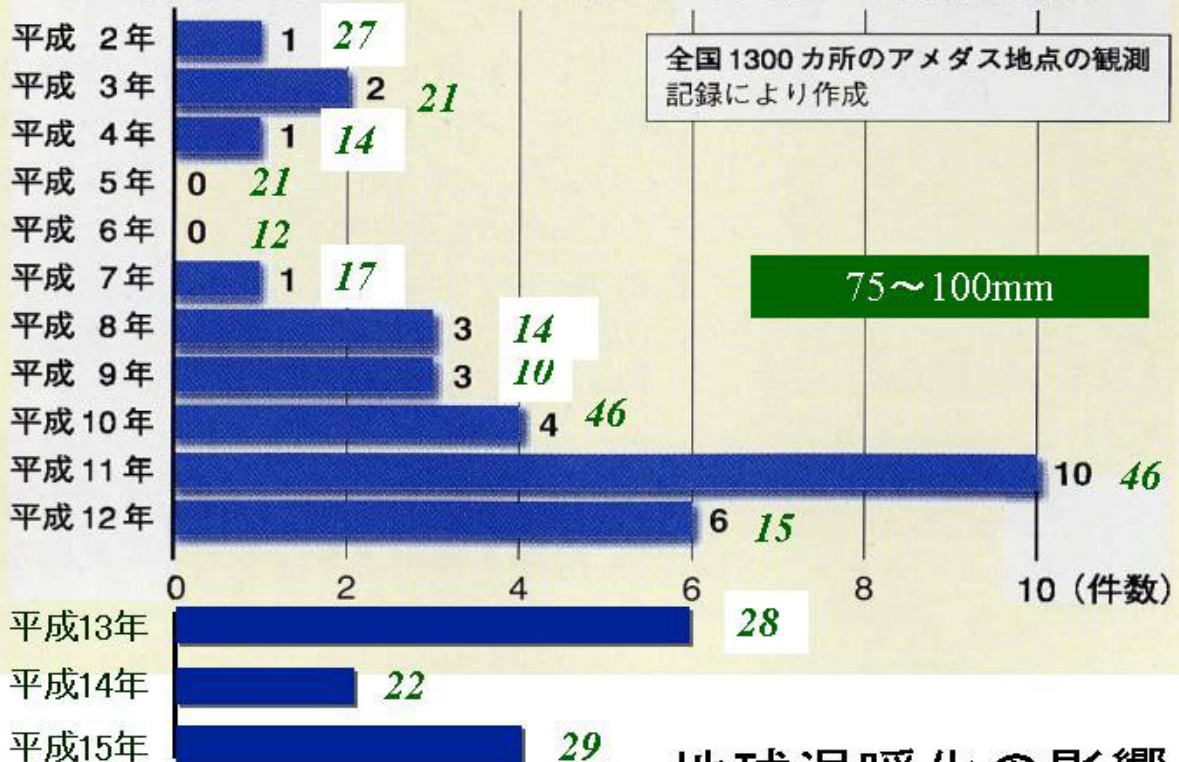


地球温暖化の影響

1時間降水量100mm以上の年間延べ件数の推移



地球温暖化の影響

この表は1990年（平成2年）以降、我が国で発生した集中豪雨の年間延べ件数を示したもので、全国約1,300カ所のアメダス地点の観測記録により作成しています（この期間中、アメダス地点数はほとんど変わっていません）。ブルーの棒グラフは、1時間降水量が100mm以上、緑色の数字は1時間降水量が75～100mmの件数をそれぞれ表しています。時間降水量で、例えば1時間に80mmを超えるような雨になると、人の受けるイメージとしては、息苦しくなるような圧迫感があり恐怖を感じるようになります。また、雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要となってきます。

長期的にこの傾向がこれからも続くという保証はありませんが、少なくとも1995年（平成7年）以降、我が国では非常に多くの集中豪雨が発生していることが、この表からも分かります。

この集中豪雨発生の一の原因は、1990年代から急激に進んだ地球温暖化の影響です。すなわち雨が降るときは徹底的に降り、降らないときは全然降らないという両極端が地球の温暖化によってもたらされています。これは我が国だけの特性ではなく、世界的に集中豪雨の発生が記録されています。